

(別紙様式 4 - 1)

(県立高等学校・中学校用)

熊本県立天草拓心高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標

「夢は空より高く 心は海より広く 道を拓かん」の校訓と「熊本の心」を基本理念とし、心豊かな人間性と生徒一人一人の個性を十分に生かし、これからの未来を創造する魅力あふれる人材の育成と活気あふれた学校づくりを全力で目指す。

2 本年度の重点目標

(1) 確かな学力を育成し、生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。

ア 「主体的・対話的で深い学び」を通して、自ら課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を育む。

イ 生徒の特性等を把握し、きめ細やかな教育を行う。

ウ キャリア教育を通して社会的・職業的に自立できる態度を育む。

(2) 豊かな情操と道徳心を培う。

ア 生命を大切にする心や寄り添う心を育み、他者と協働できる態度を養う。

イ 規律意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う。

ウ 我が国の伝統と文化を尊重する態度と、グローバルに対応できる能力を育む。

(3) 心身の健康を自己管理する態度を養う。

ア 望ましい食習慣を含めた生活習慣を確立するための態度を養う。

イ 情報モラル教育を推進し、より良い言語環境を通じて人権尊重の精神を育む。

ウ 適正で魅力ある部活動を推進する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	学校経営方針	・学校経営上の課題を踏まえた経営方針を全教職員に周知徹底し理解させる。	・全教職員に学校経営方針を認識させ、組織の一員として、すべての教育活動での実践を目指す。	・合同の職員会議や研修を通して校舎間の連携をさらに深め、魅力ある教育活動の実践を図る。各主任主事が日程の調整及び連絡体制を確立する。	B	・オンラインによる始業式や職員会議を実施し、両校舎の連携強化を進める努力を行った。 ・今年度は、両校舎合同の長距離走大会を実施することができ、生

					<p>徒・職員・保護者の連帯感を醸成する取り組みとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職・各主任主事も連絡・相談を密に行いながら教育活動を押し進めたが、職員研修についてはコロナ禍もあり、合同で実施することはできなかった。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針に沿った魅力的教育活動を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携や高大連携及び企業連携を通して本校教育の魅力を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業の推進とHPを利用した情報発信による魅力創造。 ・新しい生活様式をふまえて、生徒の活躍の場を見ていただく機会を作る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HP 1月末現在での更新回数は、本渡校舎が81回、マリン校舎が110回であった。学科により掲載頻度のばらつきはあるものの、魅力発信に努めた。 ・本渡校舎における「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」、マリン校舎における「国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業（水産）」での研究も2年目となり、12月に新型コロナウイルス感染防止策を講じながら研究成果発表会を実施した。地域の小・中学校をはじめ、多くの方々に来校いただき、オンラインでの配信も行いながら本校教育活動の魅力発信の機会とした。

	業務改善・学校改革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保。 ・教職員の働き方改革。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会及び放課後の会議数等の減少。 ・ライフワークバランスを考慮した働き方の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会の週1回の実施で学年連絡の充実とSHRにおける時間の確保。 ・各主任主事と連携をして、校務分掌におけるOJTに積極的に取り組む。 ・部活動指導の負担軽減。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会を定期的実施しながら、職員に時間外在校時間の状況を周知することで、見通しを持った業務遂行となるよう努めた。時間外在校時間平均（4～12月）は、本渡校舎が約33時間（昨年度：39時間）、マリン校舎が約32時間（昨年度：30時間）であった。今後も職員研修等を通して業務改善への意識の高揚を図っていく必要がある。 ・ICT活用への職員研修等を実施しながら、一人一台端末整備への取り組みを進めたことで、今後の業務改善に期待したい。 ・部活動指導に関しては、両校者間で調整を図っているが、基本方針を含めて、今後の検討が課題と言える。
学力向上	授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研究 ・GIGAスクール対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校事業を通じた授業改善及び評価法の研究。 ・1人1台端末整備による学習充実が図れるICT環境の整備推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働推進企画部（本渡）・教育課程研究指定校事業推進委員会（マリン）と連携し、指導と評価の一体化を推進する。 ・本校の環境・実情にあったネットワークを構築し、ICT教育のありかたについて教職員への研修を行う。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を通じて指導と評価の一体化のための知見が深まった。具体的な教務規定への反映が課題である。 ・1人1台端末が導入され、生徒・教職員ともに有効活用ができています。今後は端末を効果的に利用

						するため、ルールを検討する。
キャリア教育 (進路指導)	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上並びに進路に関する諸能力育成を目指したキャリア教育の充実	・進路情報の発信や進路希望等の情報の共有	・進路情報などをプリントや学校ホームページで発信する。 ・家庭と学校、進路指導部と学年部など、連携を綿密に行う。	・保護者への進路情報提供を学期毎に実施する。 ・進路希望調査や模擬試験等の結果を集約し、生徒に現状の把握と今後の方向性を持たせる。 ・職員の連絡会や打ち合わせ等を月1回以上実施する。	B	・タブレットを使って、キャリアサポーター通信を配信することができた。(本渡) ・進路行事をHPで情報提供した。(マリン) ・進路指導部会をほぼ毎週開催し、情報の共有を図った。
		・生徒一人一人の特性等に応じた、きめ細やかな進路指導	・生徒の特性や適性等を把握し、それらの結果を活用して生徒の進路希望を尊重した進路指導を行う。	・生徒の適性や特性を把握するための職業適性検査を実施する。 ・進路希望調査を各学期に実施する。 ・キャリアサポーターによる個別面談指導や講話を行う。 ・担任等による個別面談を各学期に実施する。	A	・職業適性検査は必要に応じて実施した。(本渡) ・3年就職希望者は、全員キャリアサポーターによる個別面談を実施した。(共通) 2年生対してはマリンが11月に実施済み、本渡は3月に実施予定。 ・担任を中心とした個別面談等は、随時行っている。
生徒指導	規範意識の醸成 ～他律から自律へ～	・基本的な生活習慣の定着について	・挨拶の励行 ・自ら挨拶のできる生徒の育成	・登校指導時の挨拶励行。(生徒会活動含) ・教職員及び生徒間の挨拶に対する意識調査を行い改善に繋げる。 ・毎朝の登校指導を行い、継続的な指導を実践する。 ・スマホ等の依存からくる生活の乱れを全校集会やHR等を利用して改善する。	B	・挨拶については、少しずつできるようになってきた。生活委員会の挨拶運動も定着し、生徒同士が挨拶し合う場面も増えた。 ・本渡校舎においては遅刻が常習化している生徒への指導が課題であるが、中学時よりは改善が見られる生徒も多数おり、教職員が連携を図り、粘り強く指導すること

					<p>が重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリン校舎では、遅刻常習の生徒はほとんどおらず、朝のSHRはクラス全員が揃っている。整容も落ち着いている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 清々しい整容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年7回の整容指導を実施する。 ・ 生徒自身の整容面への意識向上を目的とする主旨を踏まえ、教職員間の連携を図りながら、日常の整容意識により力を入れる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子生徒の頭髪の再指導が十数回に及ぶこともあった。生徒指導部だけでなく全教職員の協力が不可欠であり、今後も連携を高めながら対応していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 寮生活の充実 (マリン校舎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マリン校舎109名中67名が寮生である。様々な課題を抱えて入学してくる生徒もいるが環境が変わることによって成長し、寮の雰囲気も年々よくなっている。一方で、4人部屋に5～6人入っている部屋もあり、ストレスを溜め込まないよう適宜対応をしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度もコロナ対策や消灯後のスマートフォン預かりなど様々な規則を取り入れながらの寮生活となり、寮生は不便を感じながらの生活だったと思われる。一方で、寮内感染の未然防止、睡眠不足の解消など一定の効果もあった。部屋の人数は今後も課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ルールの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車・原付の乗車マナーの指導徹底。 ・ 交通違反件数の削減 (昨年比10%減少) 1 ・ 交通事故件数の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車通学生及び原付通学生に対しての講習会の実施。 ・ 通学生集会や講演会や教材等を活用し命の尊さについて考える機会をつくる。 ・ 交通安全に関する標語やポスターの掲示を行うなど、啓発活動を活発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通違反1件、交通事故6件。昨年度と比較して違反件数は-2件、事故件数は同数。今年度は交通安全講話も実施し、少しずつ安全教育が充実してきている。 ・ 外部からの苦情も減り、交通マナーやルールについても守れる生徒

			減	にする。 ・交通事故現場での対応マニュアルを生徒へ配付する。		が育ってきている。しかし、まだまだ課題は多く、イヤホンやスマホを扱いながら自転車を運転したりしている生徒も見受けられる。今後も粘り強い指導が必要であり、事故・違反0を目指していく。
		・SNS使用のモラルの向上	・SNSに関わるトラブル件数の減少 ・SNSの上手な使用方法の徹底	・全校集会や学年集会等を通じて、SNSに関わる問題事案の紹介や、トラブルに発展しない利用方法を周知。 ・職員研修等で、職員のSNSへの理解を深める。	B	・スクールサインの説明時に学年集会を実施し、SNSに関するトラブルについてなど話しをすることができた。 ・いじめ問題のほとんどにSNSでのやり取りが関わっており、今後は使い方についても指導を重ねていきたい。
人権教育の推進	差別やいじめのない学校・学級づくり	・生徒の人権感覚を身につける教育活動を推進することができたか。	常勤教職員の9割以上が校外研修に参加するなどして、教職員の人権教育への実践力を高めて教育活動にあたる。	・校外研修の年間参加計画を作成する。 ・「教科等の授業における人権教育の実践」に取組み、この実践を題材として校内研修を行う。	B	・校外や動画視聴での研修に9割以上が参加した。
	「命を大切にすることを育む指導」	・相談できる環境づくり組織的な対応	・相談体制の充実	・個人面談期間を活用し、生徒が相談しやすい環境や機会をつくる。	B	・毎学期の始めに面談週間を設定し、担任が時間にゆとりを持って生徒と関わる機会をつくった。
いじめの防止等	早期発見・早期対応		・いじめに関するアンケートの実施 ・スクールサインの有効活用	・年に3回いじめに関するアンケート調査を実施し、早期に発見し対応する。 ・スクールサインに対しての迅速な対応を行い、的確な対応に繋げる。	A	・アンケート結果を基に職員研修を実施し、職員間で情報共有をおこない丁寧且つ迅速な対応ができた。

	いじめ根絶のための啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策会議の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部など他部署と連携を深め、いじめ防止対策会議を適宜開催し、対応策、未然防止策を全職員で共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめ防止対策委員会を実施し、校舎間でも情報共有やアドバイスなどをし合い、適切な対応策を講じることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を育み、良好な人間関係構築のための支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的行動指標や標語、ポスター等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会で本校のいじめ根絶宣言を全校生徒に周知する。またいじめ根絶に向けたポスター掲示や標語の募集を行い、生徒自らが人権感覚を磨く機会をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・標語を募集し、昇降口の上に大きく掲示している。また、生徒自らが人権感覚を養うためにも、LHRで取り扱う内容の精選や人権委員会の活動の充実を図りたい。
読書指導	豊かな心の育成を目指した読書活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用率（図書の貸し出し数）の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒貸し出し数1人あたり年平均6冊（本渡校舎）、12冊（マリン校舎）を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間の確保、図書館内外の掲示・展示・広報による情報発信、生徒図書委員会（マリン校舎：メディア委員会）活動の活性化（学級文庫の定期的な入れ替えなど：本渡校舎） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本渡校舎では目標程度、マリン校舎では目標を大きく超えて達成できた。図書委員会（メディア委員会）は活動の定着をはかりたい。
安全教育	事故防止の徹底と安全な避難	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル、防災マニュアルに沿った取り組み ・校内安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の高揚 ・災害時の迅速な連絡及び周知 ・安全点検の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練を行い防災意識の高揚を図る。 ・安心・安全メールの登録率を向上させる。 ・学期ごとに安全点検を行い改善すべき箇所は迅速に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修として屋内消火栓を使用した消火訓練を実施した。消防避難訓練、シェイクアウト訓練を実施し、防災意識の高揚を図ることができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	保護者や地域等々との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会、自治体、団体、企業との連携 ・広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会、地域の協力を得て教育活動を充実させる。 ・地域へ情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体、団体と協力し、環境保全、商品開発を進める。育友会に学校行事への協力を頂く。 ・教育活動をホームページ等で情報発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 育友会より、長距離走大会での交通指導、バナナ等の配付に協力していただいた。 ホームページでは、学校行事、熊本丸実習航海等の教育活動を発信することができた。